航空ファン
KOKU-FAN

ワイドカラー
WIDE COLOUR
中島
97艦攻



☆特集☆
カラー特集 :米海軍のファントムII
F-X候補機を再検討する ③F-14
日本海軍の無線操縦機テストのてん末

'76 MARCH 3

BUNRIN-DO JAPAN

$3.30

ポイントマグー基地のファントム

F-4 Phantoms of NAS Point Mugu



(VX-4) 所属のF-4Jファントム。グロスブラック ... F-4J of VX-4. Black is the squadron commander's

(Photo: Richard F. Lutz, Jr)



(Photo: Richard P. Lutz, Jr)



(Photo: Richard P. Lutz, Jr)

第4実験開発飛行隊（FX-4）は空戦用兵器システムの開発を主任務としており，各種の戦闘機を使って空対空ミサイル，機銃等の最終段階の実験にあたっている。上は飛行を終えて着陸態勢にはいったVX-4のファントム。下は着陸した隊長機。



VX-4 Phantoms are busy testing/evaluating newly developed air-combat weapon system.

(Photo: Richard P. Lutz, Jr)

ポイントマグー基地における無人標的機QF-4B。この機体はすべての兵装が取外され，誘導操縦装置が搭載され，機首上下面にアンテナが増設されている後方にQT-33，T-2B，F-86Hなどが見える。

QF-4F, heavily equipped with antenae, manless target plane. Seen behind are QT-33, T-2B and F-86H.



(Photo: Erik Simonsen)

西インド諸島プエルトリコに派遣されている州航空隊（ANG）所属のF-104C。
F-104C of ANG assigned to Puerto Rico.

Thunderbirds

(Photo: Frank B. Mormillo)





(Photo: Frank B. Mormillo)

上・下ともデモンストレーション飛行に向うサンダーバーズのT-38A。機体右側面にはチームのマーク，左側面にはこれまで訪問した国の国旗が描かれている。

T-38A 'Thunderbirds'. Described on the right is the team marking and on the left is the countries where they made show flights.

(Photo: Frank B. Mormillo)



嘉手納の海軍・海兵隊機



Navy/Marine Aircraft Stationed in Kadena AB

このページは，岩国基地から訓練のため飛来している第115海兵戦闘攻撃飛行隊（VF-115）のF-4J。

F-4Js of Iwakuni-based VF-115 now in training at Kadena.





TA-4J of VC-5.

上は第5混成飛行隊VC-5）のTA-4J。下は同じくVC-5のA-4Eで，標的曳航などに使用されている。

A-4E of VC-5, towplane.





▲嘉手納基地に駐留する第22対潜哨戒飛行隊（VP-22）のP-3B。
P-3B of VP-22 stationed at Kadena



◀第5混成飛行隊（VC-5）のUS-2C。
VS-2C of VC-5.



▼VP-22のP-3B（手前）とVC-5のDP-2E。
P-3B of VP-22 and DP-2E of VC-5.

米海兵隊のハリアー部隊

新塗装になった第203海兵攻撃訓練飛行隊（VMAT203）所属のAV-8A。

The AV-8A of VMAT-203 adjusted her make-up.



(Photo: R. E. Kling)



第542海兵攻撃飛行隊（VMA-542）所属のAV-8A。
AV-8A of VMA 542.

（Photo: Erik Simonsen）

セシルフィールド基地における第513海兵攻撃飛行隊（VMA-513）のAV-8A。VMA-513は現在は岩国基地に駐留しているが，写真の機体は米本国在留派遣隊（VMA-513 DET-A）所属機である。

AV-8A of VMA-513 DET-A, Cecilfield.
(Photo: R. E. Kling)





ジャクソンビル基地で撮影した第231海兵攻撃飛行隊(VMA-231)所属のAV-8A
AV-8A of VMA-231, Jacksonville, Fla.

(Photo: R. E. Kling)

世界のジェット・エアライナー ⑨

エアバスA. 300

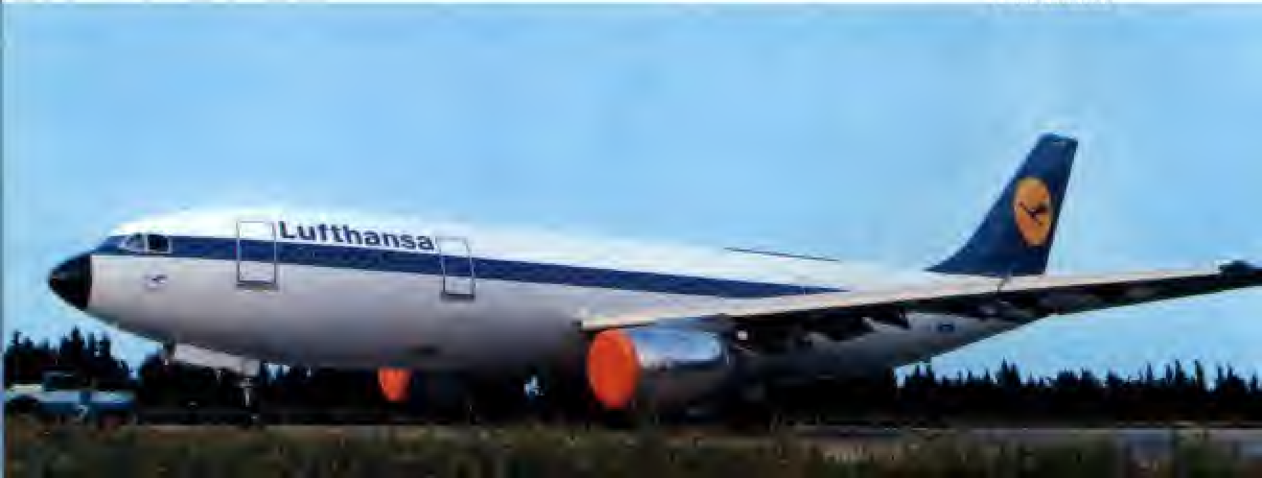


▲Trans European Airways

▼Korean Air Lines



▼Lufthansa



空母ミッドウェーの艦載機

CVW-5 CRAFT ABOARD USS MIDWAY



写真は昨年12月横須賀基地で公開された時のもので，第56攻撃飛行隊（VA-56）"チャンピオンズ"所属のA-7A。ミッドウェーにはこの部隊の他にA-7Aを使用する第93攻撃飛行隊（VA-93）"ブルーブレザーズ"も載っている。

An A-7A of VA-56 "Champions" aboard USS MIDWAY, 23 Dec. '75, Yokosuka.



▲機首のレドームを開けて整備中の第115攻撃飛行隊(VA-115)"アラブズ"所属のA-6A。後に見える尾翼はKA-6Dで，同飛行隊は最初にKA-6Dを装備した実戦部隊である。

A-6A of VA-115 under maintenance. Seen behind is KA-6D. The VA-115 'Arabs' squadron is the first operational unit equipped with the KA-6D.

▼第115早期警戒飛行隊(VAW-115)"ウイリイバード"所属のE-2B。胴体側面ESの文字の後にアメリア建国200年を記念する「自由の鐘」の絵が描かれている。

E-2B of VAW 115. Note the the mark of 'Bell of Liberty' commemorating the bicentenary of the United States.





▲第161戦闘飛行隊〈VF-161〉"チャージャーズ"所属のF-4N。手前に見える機首は第5空母攻撃航空団〈CVW-5〉の司令官機。

F-4Ns of VF-161. That of the CJmmander, CVW-5, is in foreground.

▼第151戦闘飛行隊（VF-151）"ビジランティーズ"所属のF-4N。空気取入ロベーンに赤でミグの撃墜マークが描かれている。

F-4N of VF 151 'Vigilantees'. Note the MiG killing victory mark close to the air intake.



フランスの シャトーダム空軍基地の翼たち



シャトーダム空軍基地は，アメリカ空軍のデビスモンサン基地に相当するフランス空軍の整備補給基地で，新旧のフランス空軍機が数多く翼を並べている。写真は第22航空支援飛行連隊第1飛行隊（EAA1/22）のAD-4スカイレイダー。この第1飛行隊はチャドで対ゲリラ作戦の任についている部隊であるが，スカイレイダーはすでにフランス空軍でも珍らしい存在になっている。

AD-4 Skyraider of EAA 1/22, now used for counter-guerrilla operations.
(Photo: Inter-Air Press)



▲F-100Dスーパーセイバー。ツールを基地としている第11攻撃飛行隊（EC1/11）の所属機で，機体は旧塗装であるが，垂直尾翼にはEC1/11の部隊マークである"道化師"のバッジをつけている。

F-100D Super Sabre 11-EG of 11 Escadre de Chasse at Toul (Inter-Air Press)

▼AD-4スカイレイダー。現在AD-4を装備しているフランス空軍部隊は第22航空支援飛行連隊のみで，同飛行隊の一部はチャドに駐留してゲリラ鎮圧支援の任についている。

AD-4 Skygraider of EAA 1/22. Not many days before leaving the front service. (Inter-Air Press)





▲ミラージュF-1。フランス空軍の最新鋭戦闘機。写真の機体はレイムに駐留している第30戦闘飛行連隊第2飛行隊（ECTT2/30）の所属機で，垂直尾翼には2頭のライオンと電光を図案化した部隊マークをつけている。

Dessault Mirage F. 1, AC 50 coded 30-MB, of ETTT 2/30 "Normandie Niemen".
(Inter-Air Press)

▼ダッソー・ミステールⅣA。つい最近まで第312訓練部隊で空軍パイロットの養成に使用されていた機体である。

Dassault Mystere ⅣA, 312-US of 312 Groupement Instruction. (Inter-Air Press)



エドワーズ空軍基地でテスト中の A-10最産1号機

A-10の量産型1号機がこのほどフェアチャイルドのテスト飛行場で初飛行ののち，先行量産型3機とともにエドワーズ空軍基地へ引渡され，テスト飛行を続けている。なおA-10使用の最初の飛行隊は今年2月に，アリゾナ州デビスモンサン空軍基地で編成の予定になっている。

The first production version A-10 was delivered to the USAF Edwards Test Center. The first operational squadron will be formed at David Monthan AFB, Ariz. This spring.







初飛行したEF-111A

グラマンが米空軍用に開発中のECM機EF-111Aが,「ウェポンズ・ベイ・レドーム」の性能試験のための初飛行をした。レドームは機体下面のコーン型の出張りで長さは16フィートあり，この中に強力なレーダー妨害送信装備のアンテナが格納されている。2機のF-111AをECM機に改造するための開発費として，グラマンは米空軍と8,500万ドルの契約をむすんでいる。

The first of two F-111As, which Grumman Aerospace Corp. is modifying into EF 111A Tactical Jamming (ECM) Aircraft for the USAF, made its initial flight with a new weapons bay radome, Dec. 15, 1975. (Grumman)

イラン向けグラマンF-14トムキャットの1号機が初飛行した。この機体は今年1月にイランに引渡される。グラマンではイランから80機を受注しており，1976年には毎月2機あて，1977年には毎月3機が引渡され，1978年の中頃までに全80機の引渡しが完了する予定になっている。

Grumman F-14 "Tomcat" for Iranian AF. During 1976, two will be delivered to Iran each month, and during 1977, three a month, to complete the scheduled delivery of 80 by the summer of 1978.



USAF Air Demonstration Squadron

Thunderbirds



Photos by FRANK B.MORMILLO



「サンダーバーズ」は正確にはＵＳＡＦ　Air Demonstration Squadronといい戦術航空団（ＴＡＣ）に所属している。

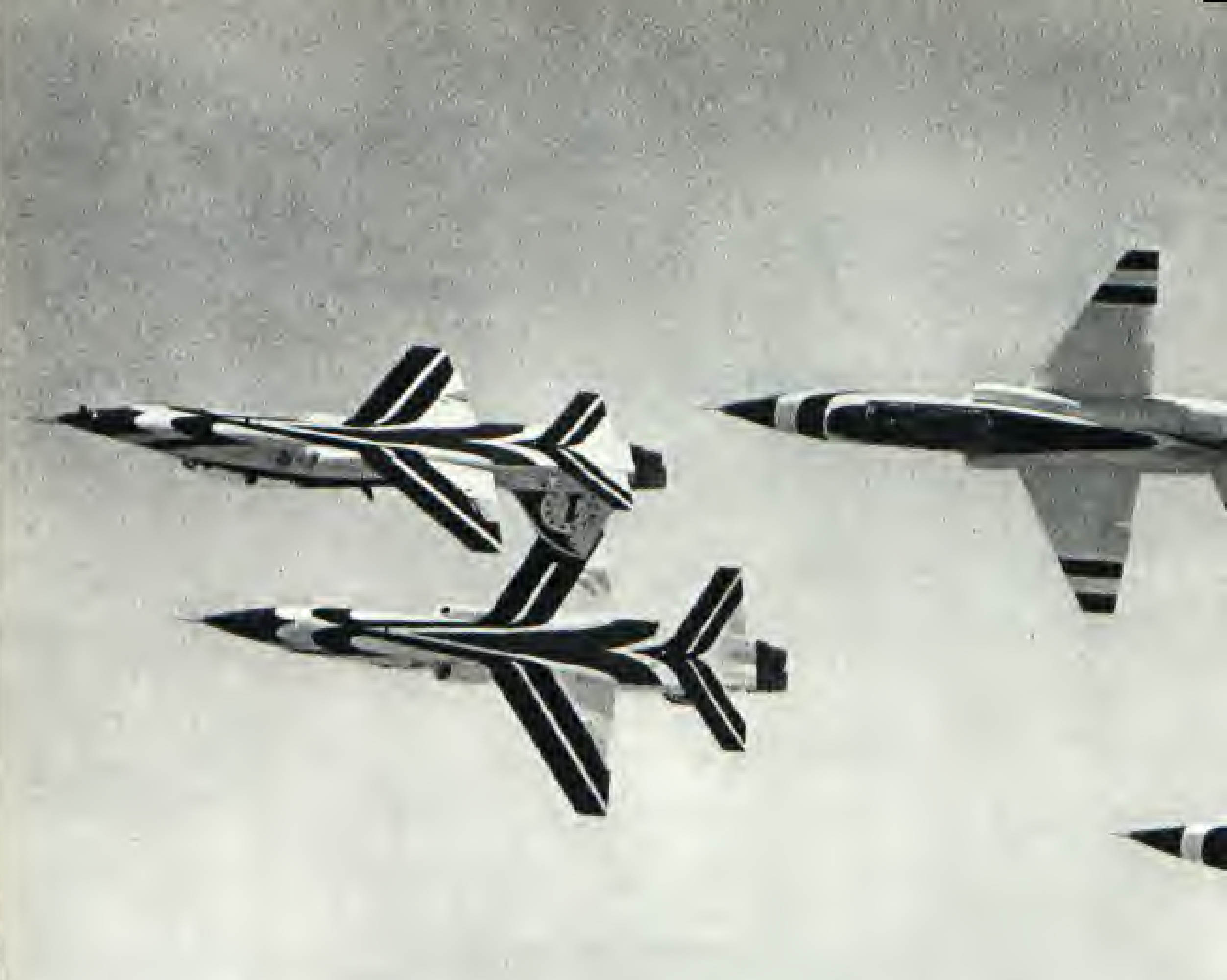
チームの目的はアメリカ空軍の技両をデモンストレーションすることで、世界各国にでかけて妙技を披露する「Ambassadors in Blue（青い服の大使たち）」といわれ親しまれている。

The USAF Thunderbirds, assigned to the Tactical Air Command, have the vital mission of demonstrating the professionalism, versatility and flexibility of Air Force personnel and equipment. Known as America's "Ambassadors in Blue", the Thunderbirds have averaged more than 100 air shows per year.






U.S. AIR FORCE



サンダーバーズは毎年100回以上のデモ飛行を行っているが、記録によれば1959年には、30日間に27回のデモ飛行をしたことがある。サンダーバーズ（雷鳥）というチームの名は、昔、北アメリカで雷が鳴って稲妻が光ると、インディアン達が空を見上げて雷鳥を探したという伝説からつけられたものである。

Hundreds of years ago, when thunder cracked in the skie over North America, Indians would raise their heads in search of the "Thunderbird". A jet fighter cracks the sk much like the legendary Thunderbird. Thus the USAF Thunderbirds were born.








1
7
4
S AIR FORCE









チームの使用機は、F-84G、F-84F、F-100C、F-105B、F-100D、F-4Eの順に変わり、1974年からは現在のT-38Aに機種変更されている。
Since they were organized in 1953 at Luke AFB, Ariz., the Thunderbirds have flown seven different aircraft including the current T-38 Talon. They were F-84G Thunderjet, F-84F Thunderstreak, F-100C Super Sabre, F-105B Thunderchief, F-100D Super Sabre and F-4E Phantom II, in that order.





続カデナの翼たち

2月号で、嘉手納基地の空軍機を紹介したが、今月は嘉手納の海軍・海兵隊機を紹介しよう。このページ上は第22対潜哨戒飛行隊（VP-22）所属のP-3Bと嘉手納基地のC-117D。下は第22対潜哨戒飛行隊のP-3B。







上は離陸する第22対潜哨戒飛行隊のP-3B。同飛行隊にはP-3Bが9機所属している。中は第5混成飛行隊（VC-5）所属のSH-3Gヘリコプタ。下も同じく第5混成飛行隊所属のSH-3GとUS-2C。





このページは訓練のために岩国基地から飛来している第115海兵戦闘攻撃飛行隊所属のF-4Jファントム。同飛行隊の使用機は以前はF-4Bであったが，現在では写真のようにF-4Jに機種変更されている。




VE


FA-115
ARI



このページは第5混成飛行隊（VC-5）所属のTA-4J。同飛行隊には，この他に単座型のA-4Eも所属していて，訓練の際の標的曳航用などに使用されている。



PHOTO NEWS





胴体下面にミニガン「ミニタート」を装備したフランスの攻撃ヘリコプタＳＡ.342ガゼル。

左は自動車用高速道路で離着陸のデモ飛行を行ったアルファジェット練習機。下は去る12月５日、イタリアのアリタリア社のフライト・テスト・センターで初飛行したＭＲＣＡ５号機。イタリアで組立てられるものとしてはこれが初号機で、この機体は主として兵装システムのテストに使用される。







このページは訓練飛行にはげむソ連空軍のパイロットたち。上は訓練飛行のあとで飛行結果を検討するパイロットたち。下は訓練飛行に出発するパイロット。下の写真で左に見える機体はMiG-21の複座練習機。（Photos by TASS）



ルフトハンザ航空向けエアバスA300の一番機(通算21号機)が去る11月29日、フランスのツルーズで5時間5分に及ぶ初飛行を行ったが、12月2日の2回目の飛行で、同機は内部改装のため西独ハンブルグのMBB航空機会社に回航された。





上はソ連とポーランドで協同開発した農業用機M-15。下はソ連厚生省の緊急医療班で使用しているチェコのモロバ社製軽飛行機。この写真は外科医が緊急要請をうけて出発するところである。

(Phots by TASS)



スナップだより



新塗装になって横田基地に飛来した米空軍航空通信軍団（ＡＦＣＳ）所属のＴ－39Ａ（三鷹市　K.Tokunaga）。

12月下旬厚木基地に飛来した、空母オリスカニの第215攻撃飛行隊所属のＡ－７Ｂ（相模原市　橋本俊哉）。



横田基地に飛来した空母キティホークの第192攻撃飛行隊所属のＡ－７Ｅ（昭島市　山内裕之）。



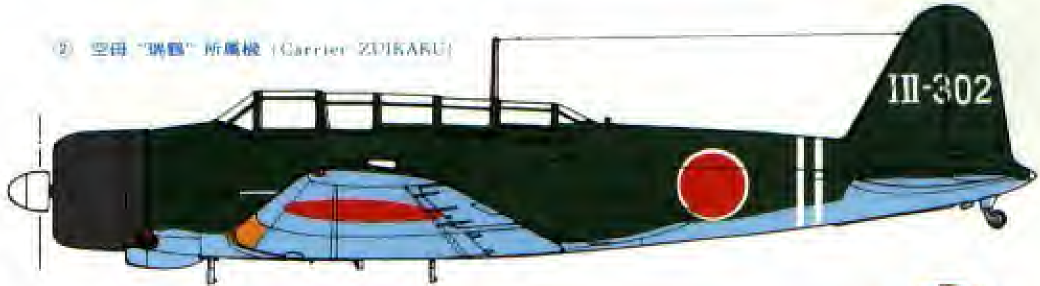
ワイドカラー
WIDE COLOUR

中島97式3号艦上攻撃機(B5N2)

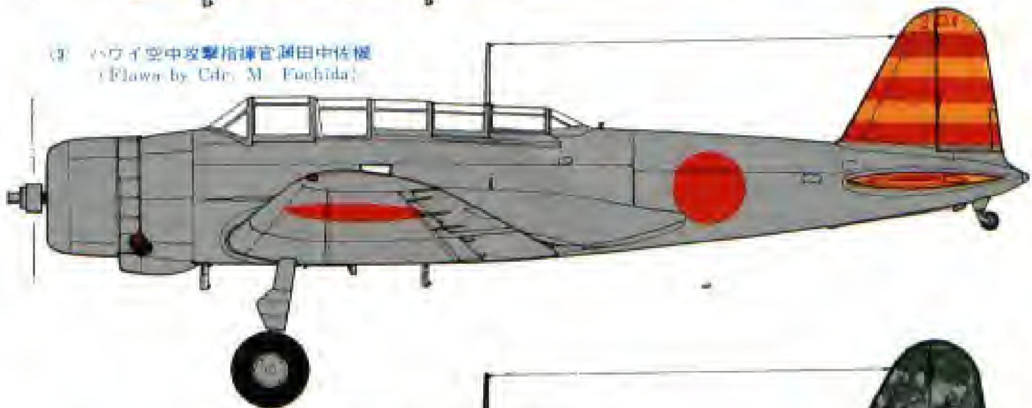
① 空母"飛龍"所属機 (Carrier HIRYU)

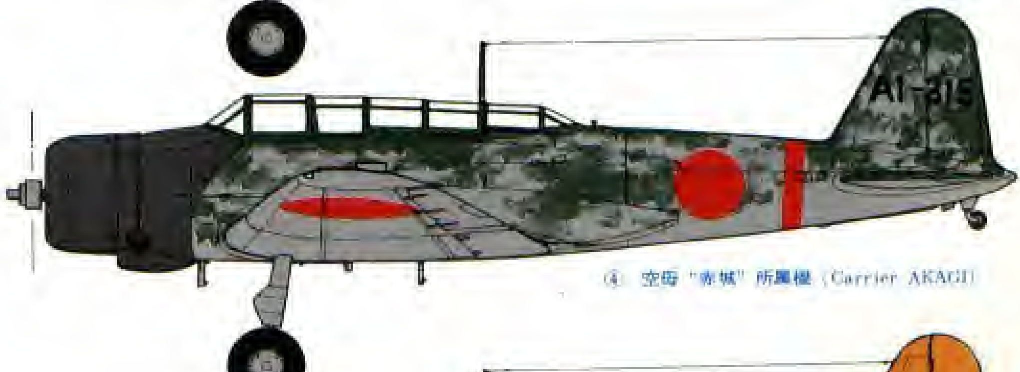


② 空母"瑞鶴"所属機 (Carrier ZUIKAKU)

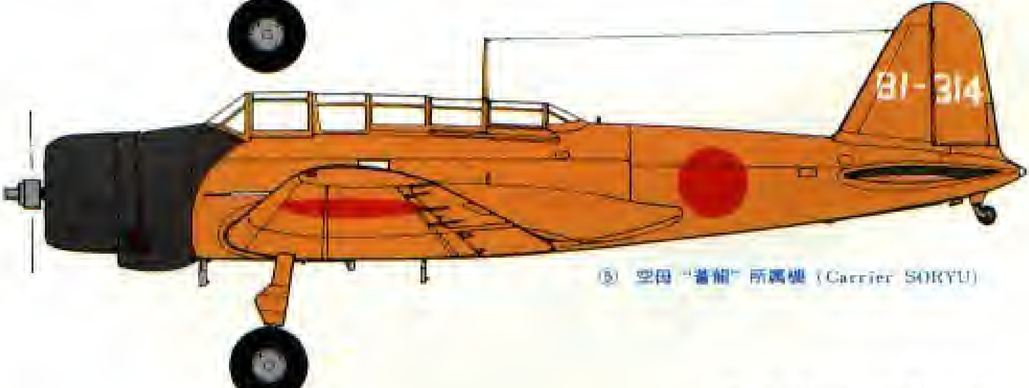


③ ハワイ空中攻撃指揮官淵田中佐機
(Flawn by Cdr. M. Fuchida)





④ 空母"赤城"所属機 (Carrier AKAGI)



⑤ 空母"蒼龍"所属機 (Carrier SORYU)

© K. Hashimoto



⬆ Ki. 45 Toryu, Clark Field, Luzon, 1945 (Photo: Frank, F. Smith)

⬇ Australian personnel examining abandoned Ki. 43 Hayabusa of No. 77 SENTAI, Hollandia, June 1944 (Photo: Frank F. Smith)

◇南方戦線の陸軍機◇

⬆ フイリピンのルソン島クラークフィールドで米軍にろかくされた2式複戦"屠龍"。1945年の撮影。
⬇ ニューギニアのホーランジアで、オーストラリア軍にろかくされた1式戦"隼"。18年秋にニューギニアへ進出した飛行第248戦隊の所属機。1944年6月の撮影で，機体を点検しているのはオーストラリア兵。





⬆ Ki. 44-IIb Shoki of No. 246 SENTAI, Philippines, 1944 (Photo: Frank F. Smith)

⬆ フイリピンの飛行場に放置された2式単戦"鍾馗"。昭和19年11月にフイリピンに派遣され，マニラ，クラーク基地などの防空にあたった飛行第246戦隊の所属機。写真は同年（1944年）末の撮影。

⬇ 1945年にクラークフィールドで撮影した3式1型戦闘機"飛燕"。昭和19年6月にフイリピンに進出して船団護衛やマニラ地区の防空にあたった飛行第19戦隊の所属機。

⬇ Ki. 61-1 Hien of No. 19 Sentai, Clark Field, Luzon, 1945 (Photo: Frank F. Smith)





カラーで見る 日本陸軍機 《続》



Ki43II Hayabusa of No. 1 Chutai of Hiko No. 77 Sentai abandoned at Hollandia, New Guinea. April 1944.

(Photo by Dennis G. Cooper)

尾翼にはちまついて、ニューギニアのホーランジアに放棄された1式戦「隼」2型。1944年1月にビルマ戦線からニューギニアに転出された飛行第77戦隊の所属機。尾翼の白いマークは第1中隊を示す。1944年4月の撮影。



⬆ クラークフィールドに放置された99式Ⅰ型双発軽爆撃機。米軍にろかくされた１機だが，機体は良好な状態である。

⬇ 同じく99式Ⅰ型双軽だが，これはモロタイ島の飛行場で空襲を受けた残骸。1944年の撮影である。

⬆ Ki. 48 - I seen abandoned near Clark Field, Luzon. 1945 (Photo: Frank F. Smith)

⬇ Remains of Ki. 48 "Lily", Moratai, Netherlands East Indies, 1944. Unit unknown. (Photo: Frank F. Smith)





↑ Ki. 56 (Army Type 1 Freight Transport), southern Philippines, late 1944 (Photo: Frank F. Smith)

↓ Ki. 51 'Sonia', f ormerly of No. 91 Direct Command CHUTAI, touches down at Labuan Isl., North Borneo, 1945. (Photo: Frank F. Smith)

↑　1944年末にフイリピン南方諸島の日本軍基地で撮影した1式貨物輸送機。ロッキード14を改造したロ式輸送機をもとに開発された双尾翼の本機は，緒戦のパレンバン空挺隊の輸送に使われたが，その後目立った働きはなく，南方の各地にこのような姿をさらした。

↓　北ボルネオのラブアン島に着陸した"緑十字"の99式軍偵。左側には米軍のカタリナ飛行艇が見える。





(D. G. Cooney)

Mitsubishi Ki-51 light bomber found in

⬆ これもホーランジアの飛行場の片隅に放置された三菱97式軽爆。胴体に無数の弾痕が見える。飛行第10戦隊の所属機で、これも1944年に4月の撮影。

(Photo by Yasu Sugawara)

⬇ バンコックのタイ空軍航空博物館に展示されている立川98式直接協同偵察機。戦後タイ空軍が練習機として使ったもの。海外に残る数少ない日本機のひとつ。





⬆⬈ 前ページ下と同じく北ボルネオのラブアン島に着陸した99式軍偵。終戦直後,日本の軍用機の一部は,"緑十字"のマークをつけて終戦処理の連絡飛行などに飛んだが,この機体もそれで,尾翼と胴体,主翼にそのマークをつけている。垂直尾翼の"緑十字"は,もとの部隊マークの上にあわただしく画かれており,第91独立飛行中隊のマーキングがかすかに見える。

⬆ Ki. 51 "Sonia" seen parked off airfield at Labuan Isl., 1945 (Photo: Frank F. Smith)





⬇⬋ これも同じく終戦処理の連絡に飛んだ97式2型重爆。機体を白く塗った"緑十字"機。1945年秋，モロタイ島で撮影。

⬇ Ki. 49-II, Moratai, NEI, 1945 (Photo: Frank. F. Smith)



Revell

ハイモデリングのための

レベル資料集

McDONNELL DOUGLAS
F-4E PHANTOM II

1/32 SCALE KIT



① F-4F，西ドイツ空軍第74連隊所属機
JG54, West German Air Force.



② F-4F，西ドイツ空軍機の平面塗装
A F-4F'S Camouflage pattern.

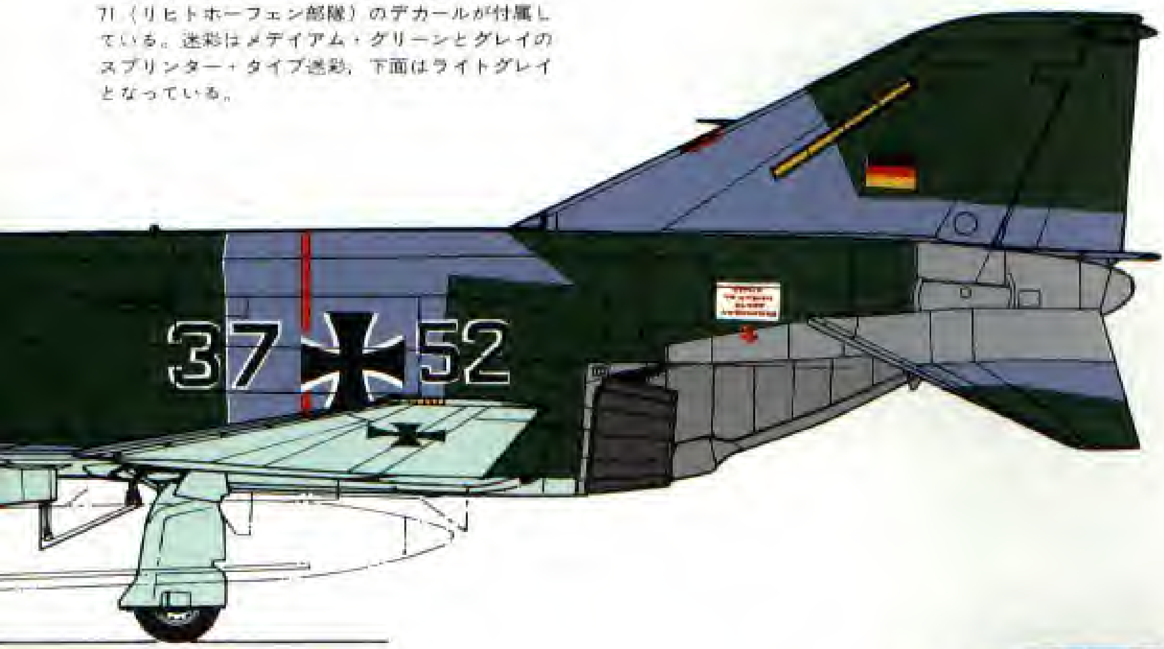
③ F-4E-35，第388戦術戦闘連隊指揮官アレン
K.マクドナルド大佐機。
Flown by Col., Allen K. McDonald of 388th TFW.



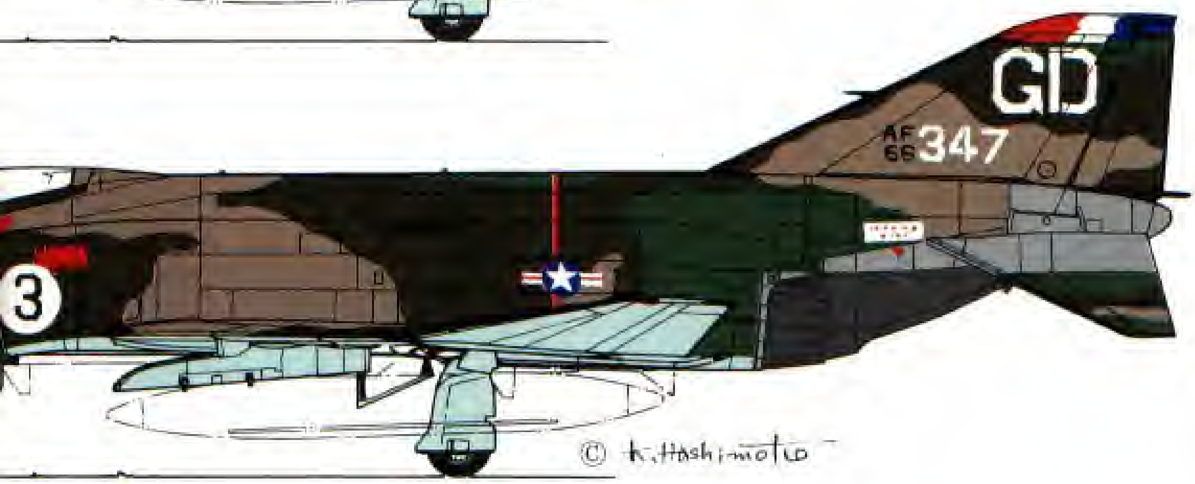
④ F-4E-33，第479戦術戦闘連隊
第434戦術戦闘飛行隊所属機。
434th TFS, 479th TFW.



西ドイツ空軍のF-4Fのキットも発売中で，JG 71（リヒトホーフェン部隊）のデカールが付属している。迷彩はメディアム・グリーンとグレイのスプリンター・タイプ迷彩，下面はライトグレイとなっている。









(Photo ; by Archiv Redemann)

ハイモデリングのための
レベル資料集

F-4E ファントムII （2）

☆ キットについて ☆

レベルの1/32スケール・ビッグ・ファントムIIは，スラット付きの最新鋭F-4FとF-4Eのキットがあるほか，豪華なマーキング付きの海軍型F-4Jが発売中。さらに近日発売の期待作として，航空自衛隊の日の丸つきF-4EJがある。

このF-4EJのキット最大の呼びものは，機体の細部にある注意書きの小文字が実機同様ともいえる超詳細さで，デカールにプリントされていることである。

グンゼ産業レベル部が実機で詳細もれなく撮影したカラー写真をもとに製作されたデラックス・デカール付きで市販される予定。大いに期待できるキットであるといえよう。

（イラストと解説・橋本喜久男）

〔写真〕　西ドイツ空軍の第74連隊（JG74）に配属されたF-4F。西ドイツ空軍では同機を175機発注しており，すでにその大半が納入されて，JG74のほかに第71連隊（JG71“リヒトホーフェン”部隊）の2個連隊が編成されている。

ファントムIIの塗装に必要なレベル・カラー
（ドイツ空軍機）

①ホワイト	⑧シルバー
㉘黒鉄色	㉝ブラック
⑯濃緑色	⑱ブラックグリーン
④イエロー	㉟明灰白色
⑬ニュートラルグレー	㉞スカイブルー
㉚フラットベース	㊶レッドブラウン











(Photo : Revell)

ハイモデリングのための

レベル資料集

F-4Eファントムの主翼前縁スラット



F-4E の前縁スラットは，空戦の機動性を高めるために付けられることになったもの。これで大きな迎え角での操舵が可能となり，旋回率，ロール率が大きく向上した。前縁スラットは片翼に内側と外側の 2 枚，両主翼で計 4 枚が付けられており，内側のスラットは前後に動くが，外側のはクリーンの位置からハイリフトの位置に回転するだけ。各スラットは同時に作動し，展開は 2 分の 1 秒～1 秒，引込みは 0.9秒という短時間で可動する。ここの写真でその取付けぐあいがよくわかる。上の右端の写真は水平尾翼前縁のスロットのクローズアップ。

未発表 海軍機写真集 零戦《続》

(Photo by K. Tanaka)



Pre-flight briefing. No. 221 KOKUTAI, Kasanbara Airfield, Kyushu, summer of 1944.

鹿児島県笠ノ原基地で訓練中の第221航空隊の搭乗員たち。後方に乗機の零戦52型が整然と並んでいる。昭和19年夏頃の撮影。



A6M5 Zero fighters of No. 221 KOKUTAI, Kasanbara Airfield, Aug. 1944.



先月号にひきつづいて、零戦の未公開写真。大戦後半の昭和19年に入って、捲土重来(けんどじゅうらい)を期し、内地で猛訓練中のスナップである。

〔左上〕前ページと同じく、鹿児島県の笠ノ原基地で錬成訓練を行なって南方の各基地に進出した第221航空隊の零戦52型。整備中のひとこまである。これも昭和19年夏の撮影。

〔右上〕滑走中の大分航空隊の零戦22型。昭和19年2月頃の撮影。

〔右〕編隊離陸でスタートする築城航空隊の零戦52型。大戦後半の戦闘機の空戦は、彼我ともに編隊空戦法。写真は大戦末期の昭和20年に入ってからの撮影であるが、築城航空隊には終戦時にも約40機の零戦が健在で、迎撃の発進でも、20機近くが編隊を組んだまま離着陸した。写真には10数機がうつっている。



A6M2 Zero fighter of Oita KOKUTAI.
Ready to take off, Feb. 1944.



A6M5 Zero fighters of Tsuiki KOKUTAI
in formation flight, early 1945.



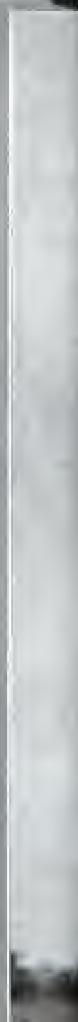




A6M5 Zero fighters of No. 221 KOKUTAI in hard traing at Kasanbara Airfield, in the summer of 1944. They were dispatched to Southern fronts after the training. Two left photos are the closed-up detail of the Zero nose and tail.

ここの4枚の写真も笠ノ原基地で訓練中の第221航空隊の零戦52型。2次大戦の花形スターである零戦も、各部の鮮明なクローズアップ写真は以外と少なく、機首と尾部の細部がわかる左側の2枚は、貴重なスナップである。

右上は編隊飛行訓練、右下はフラップをおろして着陸。いずれも昭和19年夏の撮影。







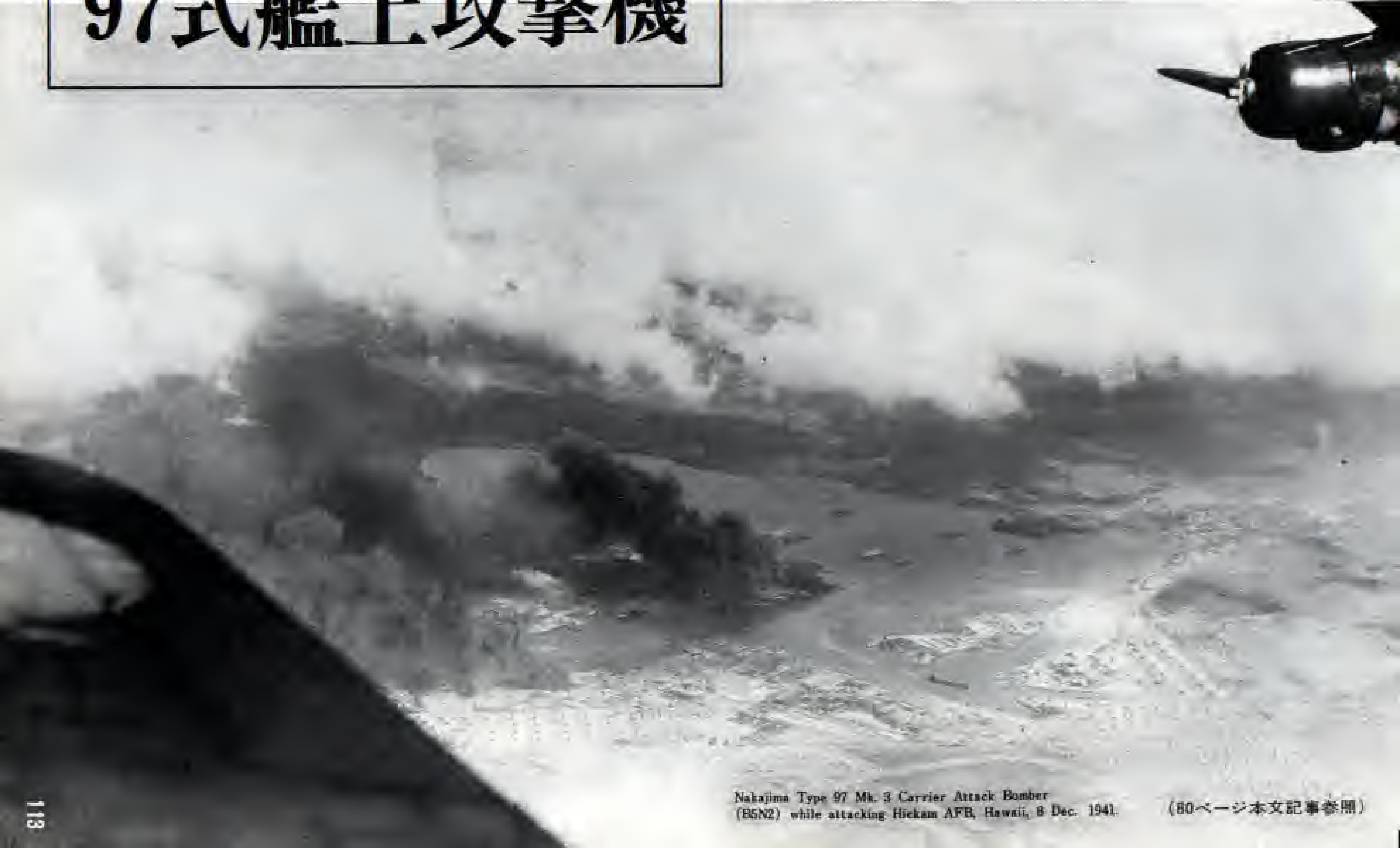
(Photo by H.Yaegashi)



NAVY TYPE 97 CARRIER ATTACK-BOMBER

97式艦上攻撃機

〔上〕昭和19年12月8日、ハワイの攻撃に向った空母「瑞鶴」の97式3号艦攻。「瑞鶴」の艦攻隊は第2波攻撃で、目標をヒッカム飛行場。下に滑走路が交叉しているのがそれで、後方は真珠湾。第1波の攻撃を受けて、真珠湾には煙があがっている。〔下〕真珠湾の全景。同じく「瑞鶴」の97艦攻から撮影したもの。



Nakajima Type 97 Mk. 3 Carrier Attack Bomber (B5N2) while attacking Hickam AFB, Hawaii, 8 Dec. 1941.

（80ページ本文記事参照）



Nakajima B5N2 Attack Bombers in formation flight.

97式艦上攻撃機には、中島製の1号（光エンジン装備）、3号（栄エンジン装備）、三菱製の2号（金星エンジン装備）と三つの型があったが、主として生産されたのは3号型艦攻。日華事変末期にデビュー、太平洋戦争緒戦の真珠湾攻撃以来、艦攻の主力として使われた。扱いやすく、3座艦攻としては運動性もすぐれており、緒戦以来の乗りなれたパイロットには好評だったが、速度の遅いのが欠点で、大戦後半には犠牲も多かった。

写真上と下は内地で訓練中の3号型艦攻である。



Nakajima B5N1 Attack Bomber embraces a 800kg torpedo.



〔上〕800kg魚雷を抱いた97式1号艦攻。1号型に装備された星型9気筒の光3型エンジン(離昇出力830hp）は、のちの3号型の星型複列の14気筒栄11型エンジン（離昇出力1,000hp）よりも径が大きく、3号型にくらべると前方視界が劣り、パイロットにとっては操作しにくい機体であった。3号型では馬力がアップして、諸性能も改善されている。〔下〕航空廠を示す「コ」の記号をつけた97式2号艦攻。中島の1号型とともに昭和12年8月に正式採用された2号型は、金星3型エンジン(公称出力840hp）装備。1号型が引込脚を採用したのに対して、大きなスパッツのついた固定脚であったが、性能は1号型と大差がなかった。120機余が生産され、小数機が本土の沿岸の哨戒などに使われている。



Mitsubishi B5M1 Attack Bomber







Mustang I used by RAF for tactical recon. mission.

●カメラを装備した●ムスタング

2次大戦ずいいちの名戦闘機ムスタング誕生のきっかけは、英空軍がつくったことはよくご承知のところ。欧州の戦火が激化した1940年4月、本土防衛の高性能戦闘機の必要に迫られたイギリスでは、米国に武器購入の使節団を送って、まだ無名のノースアメリカンと交渉したのがその発端。ムスタングはイギリスの仕様にあわせて開発され、本国の米陸軍空軍で大成された戦闘機でもある。

イギリスでは1940年10月26日、会社呼称NA-73のムスタングIを300機発注、翌41年11月に1号機を受領した。これまで購入したアメリカ戦闘機より数段すぐれた性能であることはただちに証明されたが、装備しているアリソンV-1710-39エンジンは、低空では高性能を発揮したが、高空では馬力不足。英空軍では、戦闘機としての使用をあきらめて、操縦席後方にK-24カメラを積み、戦術偵察に使うことになった。名戦闘機ムスタングのデビューは偵察任務であった。

写真左上は戦術偵察機として陸軍直援部隊に配備されたムスタングI。ムスタングIは機首両側下面に12.7mm機関砲を1挺ずつ装備、主翼にも12.7mm 2挺と7.7mm 4挺を装備しており、地上を攻撃しながらの強行偵察機には好適の飛行機であった。写真左下は主翼前照灯部分のクローズアップ、右下は後縁のフラップ。





ムスタング1の戦闘偵察型は，1942年4月にソーブリッジワースの第2スコードロンに配備され，同年7月に初出動した．ここの写真は，同スコードロンのコード・レター"XV"をつけたムスタング1．上の2枚の写真で，操縦席後方のカメラ窓がよくわかる．スライド式とヒンジ式を組合わせた側方風防，上方風防の開閉状態にも注目





写真左下は後部下方胴体のクローズアップで、オイル・クーラーの排気口と尾輪および同扉の一部。写真下では、プロペラの間を通して発射する機首下面の12.7mm MG-53-2ブローニング機銃がよくわかる。この機銃は次の型(NA-91・P-51)では廃止され、機首上方のキャブレター空気取入口も、P-51Bから機首下方に移された。





前ページと同じく第2スコードロンのムスタングI。尾部と右側主車輪のクローズアップ。AG456はムスタングIの112号機である。第2スコードロンのムスタングI戦術偵察機は、海峡を越えてドイツ軍拠点の偵察に活躍。1942年8月のデイペ攻撃には、重要な情報を提供している。イギリス空軍の単発機として、初めてドイツ国内上空に進攻したのも、このムスタングIの戦術偵察型であった。



Stinson tri motor



WINGS OF AIR INDIA

エアラインの翼

エア・インデイア ②

1939年に入って、エア・インデイアの前身タタ・エアラインズは、ボンベイ／トリバンドラム間の路線をトリチナポリまで延長、航空輸送もいよいよ本格化し、D.H.89ドラゴンラピッド、ワコーYQC-6などにつづいて購入することになったのが、写真上のスチンソン・トライモーター。同機は2本の翼支柱の付いた低翼単葉の3発機。タタ・エアラインズが購入したのは中古機であった。翌1941年には、インド政府からDC-2をチャーターして、カラチから各地に不定期便を飛ばせている。

2次大戦後の1946年、エア・インデイアと名称を変えた同航空では、つぎつぎに近代的なエアライナーを導入した。写真下は1948年に購入したロッキードL-749コンステレーション。同機には“ベンガルの姫君”のニックネームを付け、国際路線に投入、ロンドン、カイロやのちにはパリなどにも飛んでいる。写真はテスト飛行で、1954年8月29日に羽田空港に飛来したときのもの。本機は同年8月からカルカッタ／バンコック／ホンコン間に就航、翌55年5月には東京まで路線をのばした。

Lockheed L-749A Constellation





ジェット戦闘機の先輩たち　アメリカ海軍　④

グラマン F9F-2/5 パンサー（続）

GRUMMAN PANTHER

空軍のF-84やF-86とともに、最初に実戦に参加した海軍のジェット戦闘機F9F2・5パンサー。前回にひきつづいて、もういちどそのスナップをご紹介することにしよう。今回は海兵隊に装備されたパンサーである。

〔上〕朝鮮動乱で初陣をかざったF9F-2パンサー。北朝鮮軍陣地攻撃のために発進位置に向ってタキシング中。第115海兵戦闘飛行隊（VMF-115）の所属機である。手前のドリーに載せられているのはM43 500ポンド爆弾。

〔下〕同じく朝鮮戦線のF9F-2Bパンサー。攻撃から帰投してエプロンに向うところ。第311海兵戦闘飛行隊。（VMF-311）の所属機である。画面右端に同じくパンサーの1機。その左には夜間戦闘型のグラマンF7F-3Nタイガーキャットがうつっている。1953年5月15日の撮影。





〔上〕"WL"のテイル・レターをつけた第311海兵戦闘飛行隊（VMF-311）のF9F-2B。VMF-311は、パンサーを装備した海兵隊で最初の戦闘飛行隊。発進準備のためにフライトラインへ曳行されているところ。〔下〕これもVMF-311のF9F-2B。主翼下に500ポンド爆弾をつるして、近接支援任務への発進準備完了。パイロットの到着を待っているところ。朝鮮の第1海兵隊空師団の基地にて1953年3月15日の撮影。





〔上〕編隊で飛ぶ第115海兵戦闘飛行隊のＦ９Ｆ-2。同飛行隊に配備されたばかりで、海兵隊航空部隊のホームグラウンドであるサウスカロライナ州チェリーポイント基地を飛び立って訓練中。

〔下〕Ｆ９Ｆ-5を改造した写真偵察型のＦ９Ｆ-5Ｐ。第3海兵偵察飛行隊（ＶＭＪ-3）の所属機である。パンサーの偵察型は-5Ｐを改造して約30機が作られている。機首側方にカメラ窓が見える。

